

第十回留学報告書

2025 年 6 月

若原征哉

2020 年秋から FOS 奨学生として、アメリカ合衆国ミネソタ州にあるミネソタ大学にて Land and Atmospheric Science program に参加し、精密農業を専攻しています。

1. 学生生活

博士課程が始まってから約 5 年が過ぎ、報告書も大台の第十回です。今年は昨年までと違う点がいくつかあります。まずは、5 年目にして初めて圃場実験の無い夏を過ごしています。昨年まで 4 年間、夏期は圃場実験にかなり時間と労力を費やしていました。私の学部では、多くの学生が夏季実験の管理と、それらに関わる研究活動（例；出資機関への報告書作成など）や TA から給与を得ます。私の場合は、船井奨学金やミネソタ大学からの奨学金に恵まれ、金銭的な面で必要に駆られて実験管理をしていたわけではありませんでした。経験を積むという目的もありましたが、主に人手不足から、実験管理の期間が 4 年にまで伸びたと思います。ただ、昨秋に新加入した博士学生に実験を引き継ぐことが出来たため、今夏からは圃場実験がありません。

そして、前回の報告書でも触れましたが、5 月から 1 年間の企業インターンシップを始めました。OCP North America という OCP Group の北米本部で Graduate Agronomy Intern としてパートタイムで働いています。OCP Group はモロッコに本部を置き、リン鉱石採掘やリン肥料の流通販売で大きな利権を持っている国際企業です。OCP Group は UM6P という大学を通じて教育にも大きく投資している企業です。北米支部が 2020 年ごろにニューヨークからミネソタに移動したことで、上司がミネソタ大学卒で同類の研究をしていた知り合いであること等から、都合のよさを考慮しインターン先に決めました。また、北米本部はまだ拡大途中なので、大企業がバックについているスタートアップのような環境です。主な職務としては、OCP North America が契約研究機関などと共同で行う農業実験のデータ管理、データベース作成です。意図せず、4 年間の夏季圃場実験管理の経験を活かせるプロジェクトに関わることになりました。まだ新人研修の段階でわからないことのほうが多いですが、徐々にやるべきことがわかり始めてきています。同僚の方々からは温かく歓迎していただき、働きやすい環境に身を置くことが出来ています。博士学生業との両立が課題ですが、うまく 50:50 になるようバランスを取りながら頑張りたいと思います。

博士学生業の論文執筆については、2 本目の論文が査読中、3-4 本目の論文がデータ分析段階です。前回の報告書では、卒業論文が 6 章になりそうという話をしましたが、これは主に指導

教官の希望が大きく影響しています。Academic Coordinatorからは、Director of Graduate Study から助言を受けて 4 章で済ませられる計画を立てることを提案されました。私としても 6 章は多いと思っていたので、7 月に Director of Graduate Study と話し合っ、卒業までの筋道を明確にしようと思っています。卒業時期に関しては、インターンシップの予定を加味して、2026 年 5 月ごろに変更しました。あまり卒業を先延ばしにするのは良くないことは念頭に置きつつ、今回のインターンシップのような好機が訪れた際は、躊躇なく卒業を先延ばしにします。卒業することが目的ではなく、卒業を次のステップへの過程と考えて行動するようにしています。ただし、そうすると博士学生業側の給与を考えなくてははいけません。私だけに限らず、博士課程の最終期にいる学生は、夏季圃場実験に関与せず卒業論文執筆に専念していることが多いため、難しい課題です。今回は、またしてもミネソタ大学から奨学金（Hueg-Harrison Fellowship）を獲得し、2026 年の 5 月まで支援を受けることで事なきを得ました。インターンシップからはパートタイムで博士学生業と同等の給与を頂いていますが、福利厚生が出ないので保険面の懸念がありましたが、奨学金のおかげで安心して学生業とインターンシップに向かうことが出来ます。また、昨月にはミネソタ大学精密農業センター設立 30 周年を記念したミネソタ精密農業学会がありました。そこでは、光栄なことに学生ポスターコンペで 1 位を受賞しました。在学期間が長く、指導教官からもすこし圧力をかけられ、自信を持ちにくいことも多いですが、こういった表彰には気分的に助けられています。この後押しを胸にゴールラインまで頑張って走ります。

2. 私生活

2 月に、1 歳になる長女と妻を連れて日本に帰国しました。ちょうど長女がハイハイからよちよち歩きへと移行する 1 か月を両親と共に過ごすことが出来ました。娘の 1 歳の誕生日を祝い、記念の家族写真も撮りました。祖父母や叔父叔母にも会い、また友人の結婚式にも参加し同級生にも会うことが出来ました。そして何よりも両親の幸せそうな顔を見ることができ、とても充実した帰省になりました。帰国後からは、通常通りサッカーでストレスを発散しつつ、第二子を妊娠中の妻のサポートに専念していました。そして、つい先日 6 月 18 日に長男が 39 週で生まれました。母子ともに健康で、産後 2 日ほどで退院し帰宅することが出来ました。妻はこれから 3 か月の育児休暇に入ります。妻の逞しさと、義母からの大きな助けのおかげで学業と両立しながら父親としてもやっていけそうです。忙しさの中でも、妻と子供たちに囲まれて幸せな毎日を過ごすことが出来ています。当たり前にならず、感謝して過ごしていきます。

写真 1-5

ポスターコンペ 1 位、キャンプ、家族写真、娘（1 歳）、息子（4 日）

